



# "コカ・コーラ" 鈴鹿8時間耐久ロードレース

## 地域連携を中心としたサステナビリティの取り組み

鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）は、2026年7月3日（金）～5日（日）に「2026 FIM世界耐久選手権 "コカ・コーラ" 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第47回大会（以下、鈴鹿8耐）」を開催いたします。鈴鹿8耐では、モータースポーツで感じる喜び・楽しさ・感動と、サステナビリティの「地域社会との連携」・「環境」・「資源循環」観点を未来へ継承していくため、持続可能な社会の実現を目指しさまざまな取り組みを推進しています。

### 「地域社会との連携」・「環境」への取り組み

#### ① Le Mans Suzuka Positive Award

1978年から耐久バイクレースを開催してきた「ル・マン」と「鈴鹿サーキット」は2019年に友好協定を締結し、世界耐久選手権における歴史と協力関係のもと、両者の知見を活かしたサステナビリティの取り組みとして昨年から「Le Mans Suzuka Positive Award」が新たに創設されました。

本取り組みは、モータースポーツを通じて参加チームとともにサステナビリティの輪を広げ、環境や社会にポジティブな影響を生み出しながら、大会の持続可能性向上を目指します。

本アワードでは、鈴鹿8耐に出場する全チームを対象に、サステナビリティに関する取り組みを「環境負荷低減」「資源循環」「社会貢献」「大会運営における取り組み」の4つの分野の観点から評価をし、その成果を可視化します。そのうえで、最も優れた取り組みを実施したチームを表彰することで、チーム間での意識向上と好循環の創出を促します。これにより、モータースポーツにおける持続可能な大会運営の新たなモデル構築を目指します。



※2025年のアワード表彰の様子

#### ② バイクであいたいパレード

本パレードは、1999年から続く市民参加型イベントで、交通安全啓発と地域活性化を目的に鈴鹿商工会議所青年部との共催で実施しています。鈴鹿ハンター特設会場から鈴鹿サーキット前夜祭会場までの約3.5kmを、三重県警察の先導のもと、鈴鹿8耐参戦ライダーや来賓者、地域の皆さまなど約600台が走行予定です。

今年は、各チームのカラーリングを施したマシンでライダーが参加し、パレード前にはトークショーも開催します。レースと地域の一体感を高め、にぎわいの創出とモータースポーツの魅力発信につなげてまいります。



【参加チーム（予定）】※順不同

#17 Astemo Pro Honda SI Racing

#5 F.C.C. TSR Honda France

#30 Honda HRC

#63 Kawasaki Plaza Racing Team

#3 SANMEI Team TARO PLUSONE with SDG

#73 SDG Team HARC-PRO. Honda

#0 Team SUZUKI CN CHALLENGE

#19 Team TATARA Aprilia

#21 YAMAHA FACTORY RACING TEAM

#12 YOSHIMURA SERT MOTUL



## 「地域社会との連携」・「資源循環」への取り組み

## ③ 地元学生によるデザイン花壇づくり

6月11日（木）に四日市市河原田町にある三重県立四日市農芸高等学校 施設園芸コースの3年生12名が、鈴鹿サーキットグランドスタンド前に、鈴鹿8耐をモチーフとしたデザイン花壇を制作を行いました。

本施策では、昨年の鈴鹿8耐スタッフウェアの堆肥化によって生まれた堆肥を花壇の土壌づくりに活用しております。学生たちは花壇の企画段階から関わり、来場者を迎える景観づくりを担うとともに、実践的な環境教育の機会を得ることができます。この取り組みは、環境配慮と地域人材育成を両立させるものであり、サステナビリティを「体験」できる場の創出にもつながっています。地域の学生との連携を通じて、モータースポーツ文化の発信と地域交流の活性化を図ってまいります。



## ④ スタッフウェアのたい肥化

「③地元学生によるデザイン花壇づくり」に使用された堆肥は、2025年8月に開催した鈴鹿8耐で着用したスタッフウェアを堆肥化したものです。

同ウェアは、株式会社村田製作所の完全子会社である株式会社ピエクレックス（本社：滋賀県野洲市）が推進するアパレルの循環インフラ「P-FACTS」（ピーファクト）に対応しており、大会終了後に回収・分別・堆肥化を実施しました。今回、その堆肥を鈴鹿サーキットのメイン花壇に活用することで、「着る」から「育てる」へと資源を循環させる取り組みを実現しています。

今後もホンダモビリティランドは、サステナビリティパートナーであるピエクレックス社との連携を通じて資源循環を推進するとともに、P-FACTS対応素材の活用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減にも取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



### ⑤ 若年層と企業をつなぐ交流イベントの実施

期間中、16歳から23歳の若年層と企業が交流するイベント「16-23 & 企業交流会 in 鈴鹿8耐」を、鈴鹿市と連携して開催いたします。

本取り組みは、モータースポーツやモビリティ分野をはじめとする地域企業30社以上が参加し、来場する若年層に対して、実際の仕事や企業の想いに触れる機会を提供するものです。

レース観戦とあわせた交流の場を通じて、将来に向けた気づきや新たな出会いを創出するとともに、地域における人材育成と産業の活性化を促進し、持続可能な地域社会の実現に寄与してまいります。



## 「資源循環」・「環境」への取り組み

### ⑥ ペットボトルの水平リサイクル「ボトルtoボトル」

回収したペットボトルを再びペットボトルとして再生する水平リサイクル「ボトル to ボトル」の取り組みも導入しています。

本取り組みは、ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、協栄J&T環境株式会社の3社連携により資源循環を実現するもので、回収されたペットボトルは適切に分別・回収された後、再び高品質なペットボトルへ再資源化される仕組みとなっており、従来のダウンサイクルと比較して資源の価値を維持したまま循環させることが可能です。この取り組みにより、廃棄物の削減だけでなく、新規プラスチック使用量の抑制やCO<sub>2</sub>排出量の削減にも寄与します。また、来場者が分別回収に参加することで、資源循環の重要性を実感できる機会の創出にもつなげています。

#### 【鈴鹿サーキット内各施設における「ボトルtoボトル」プロセス】



### ⑦ 廃棄物の分別回収エコステーションの設置

会場内ではペットボトルだけではなく廃棄物の分別を実施するとともに、会場外においても分別状況を再確認する体制を構築し、F1日本グランプリでの知見をこの鈴鹿8耐でも水平展開して徹底した分別に取り組んでいます。

また、各チームから排出される廃材については、廃棄物の種類や分別状況が確認できる状態で搬出いただくよう協力を呼びかけ、適正な資源循環の推進に努めています。

### ⑧ ソーラーカーポートによる自家発電

施設内の駐車場約500台分の駐車枠にソーラーカーポートを設置し、太陽光発電によるエネルギーをレーシングコースで使用する常時電力で活用することで、化石燃料由来のエネルギー使用量削減およびCO<sub>2</sub>排出量低減に貢献しています。鈴鹿8耐開催時においても、こうした再生可能エネルギーの活用を継続することで、環境負荷の少ない施設運営を実現しています。



#### イベント開催概要

大会名称 : 2026 FIM世界耐久選手権 “コカ・コーラ” 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第47回大会  
公式サイト : <https://www.suzukacircuit.jp/8tai/>